



高知のよりよい明日を目指すキャンペーン

優しい社会へ

◎企画制作／高知新聞社広告局・高知広告センター ◎制作協力／高知県地域福祉部高齢者福祉課



地域の暮らしや健康のため 優しく寄り添い、支える人たち

認知症の人はもとより、誰もが住み慣れた地域で生き生きと暮らせるように。地域の高齢者を見守ったり、住民の健康を支えたり、強い思いや情熱を抱いて頑張る人たちがいます。

「何とかしたい」思いを共有する 仲間と旭地区を支え続ける

山中雅子さん

◎高知市元町・特定非営利活動法人「アテラーノ旭」理事長

「お弁当に使う」とキュウリをたくさん提供してくれた地域の方。優しさに救われる場面です

10年にわたり続ける 配食や訪問サポート

旭は独り暮らしのお年寄りが多い町。困っている人たちに手を差し伸べたいんです」と話す山中さん。旭地区でアテラーノ旭を立ち上げ、お弁当の配食や、定食も提供する喫茶の運営、訪問してのサポートなどを10年にわたり続けています。

「元々は、地区で唯一残っていた銭湯が閉鎖した後、入浴サービスの立ち上げに関わったのがきっかけです。そのとき、高齢や貧困が原因できちんとした食事を取っていない人たちを知り、『何とかしたい』と仲間たちとお弁当を作ったのが始まりでした」

昔ながらの商店や民家が残る旭地区では住民同士の結び付きが強いこともあり、取り組みに共感し、声を掛け合って協力してくれる人も増えていったそうです。



節分やクリスマスの日、高齢者宅へ回った時の写真を見せる山中さん。一緒に渡すメッセージカードには「一人ではないよ」という気持ちが



毎日配達するお弁当。昼食は約40食、夕食は約90食を作ります



「わが町のために さりげない支援を」

域に密着した活動は浸透し、中には「アテラーノに行ったら何とかしてくれる」と聞いた」と、駆け込み寺のように相談に来る人も。認知症の人についての相談を受けることもあり、介護支援専門員や町内会、行政なども協力し合って対応しています。

かつては保育士として、働くお母さんたちを支える共同保育所を開設した実績もあり、長くこの旭地区を支えてきた山中さん、アテラーノは土佐弁の「あてらあ（私たちの）」から名付けたそうで、まさにわが町の心強い存在です。「私たち職員は必要とされるのが嫌ではなく、何となくやりがいに感じるタイプばかりなんです。でも、やり過ぎない程度に、普通の距離感を心掛けています」と、今日もさりげない支援を続けています。

昼過ぎになると、毎日のように集まる女性たち。ここで知り合い仲良くなって、会話も弾みます



献立担当の山崎久子さんと一緒に。「いつも飽きないように考えてくれるの」「失敗もあるけど『おいしい』という言葉はうれしいよね」といたわり合う長年の仲間です



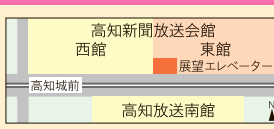
さらなる増員を目指して!!

平成28年12月31日現在で
44,999人
(県内のサポーター数)



地域で温かく見守るサポーターになる 認知症サポーター養成講座

■日時／平成29年4月25日(火) 午前10時～11時30分
■場所／高知新聞放送会館 東館8階 階段会議室 | 高知市本町3-2-15
※ 電車通り側の東側玄関より展望エレベーターをご利用ください。



■お問い合わせ・申込先
高知県高齢者福祉課 TEL 088-823-9627
※3月27日(月)より受け付け開始。定員に達し次第締め切りますのでお早めにお申し込みください。



定員80人
受講無料

オレンジリングは、
認知症サポーターの
目印です!!

